

令和時代に押さえておきたい 臨床基本手技と知識



開催日 令和6年10月12日(土)

主催 日本歯科大学校友会

場所 ホテルメトロポリタン山形

日本歯科大学歯学会

東北地区日本歯科大学校友会

〒990-0039

山形県山形市香澄町1-1-1 TEL 023-628-1111

日本歯科大学校歌

作詞：小暮 英男／校閲：児玉 花外／作曲：近藤栢次郎／編曲：前田 俊明

お お ぞ ら な が る る あ か つ き の
か ね の ひ び き に あ け そ む る
ふ よ う は っ だ の す が た こ そ わ
れ ら が ほ こ う の ま も り な れ
ち は よ し く だ ん ふ じ ー み は ら な
は よ し に ほ ん し か だ い が く

大空流るる暁の

鐘の響きに明け初むる

芙蓉八朶の姿こそ

吾等が母校の守りなれ

地はよし九段富士見原

名はよし日本歯科大学

高鳴る血潮の香をのせて

岸打つ文化の波頭

振り立つべき同胞の

甘幸もたらす学徒われ

地はよし新潟浜の浦

名はよし日本歯科大学

今さし出ずる朝日子の

平和と愛との輝きに

照りそう真紅の光こそ

吾等が母校の使命なれ

地はよし九段富士見原

名はよし日本歯科大学

令和6年度日本歯科大学東北地区歯学研修会 並びに東北地区会員大会日程

令和6年10月12日(土)
ホテルメトロポリタン山形

12:30	受付開始	
13:30	開会式	司会 山形県日本歯科大学校友会専務理事 早川 徹
	開会の言葉	山形県日本歯科大学校友会副会長 毛呂 光一
	校歌斉唱	
	物故会員慰霊	
	来賓紹介	
	挨拶	山形県日本歯科大学校友会会長 鈴木 基
	来賓挨拶	日本歯科大学校友会副会長 薄葉 博史
14:00	会員大会	
14:30	学長講演	
	「日本歯科大学は今、2024」	日本歯科大学学長 藤井 一維
15:00	歯学会会長講演	
	「日本歯科大学が世界の歯科界で果たすべき役割」	日本歯科大学歯学会会長 影山 幾男
	東北地区歯学研修会	
	テーマ 令和時代に押さえておきたい臨床基本手技と知識	
		司会 山形県日本歯科大学校友会専務理事 早川 徹
15:40	講演1	座長 富田 祥子
	「今アップデートしておきたい歯科補綴に関する知識とその臨床応用」	生命歯学部歯科補綴学第1講座教授 隅田 由香
16:55	講演2	座長 飯淵 義晃
	「現代の根管事情と歯内治療の new technologies」	新潟生命歯学部歯科保存学第1講座准教授 北島佳代子
18:00	閉会の言葉	山形県日本歯科大学校友会副会長 毛呂 光一



ふじ い かず ゆき
藤 井 一 維

日本歯科大学 学長

「日本歯科大学は今、2024」

本学が世界最大の歯科大学というその理由は、2つの歯学部、大学院、短期大学、2つの附属病院、2つのクリニック、医の博物館である。十分なハードは整っている。

それでも大学は、常に、ハード、ソフトの両面を充実させることに全精力を注いでいる。

東京では、短大の移転新築にともない、その後の旧短大校舎を今後どのように使って、その空いたスペースをいかに有効に、次世代に対応できる病院を目指すか等、現在、ワークショップを開催して、その利用方法、改修を検討している。一方、新潟では、耐震工事が現在進められている。

ハードがいくら整っても、歯科界が危ないとどうしようもないのが大学である。

現在、業界では、歯科技工士の人材確保対策事業等、歯科医療従事者の確保に向けた動きを始めた。本学は、その対象を子供達に向けたイベントを行っており、「学びのフェス」「ハノシゴトフェスティバル」等々、極端なアーリー・エクスポージャーを実施している。それを行うには行わざる得ない理由があるからで、それを老舗の本学がやらずにどうするという話である。

歯科大学はそれ以上でもなく、それ以下でもない。

今回は、この「日本歯科大学の今」を、限られた時間ではあるが、校友の皆さまにご紹介する。



かけ やま いく お
影 山 幾 男

日本歯科大学歯学会 会長

「日本歯科大学が世界の歯科界で果たすべき役割」

日本歯科大学は、2つの大学院、2つの歯学部、2つの病院、2つの短期大学を持つ世界最大の歯科専門の大学である。

1985年5月、本学とミシガン大学歯学部で、「口腔保健のための国際姉妹校連合」(International Union of school of Oral Health 略称 IUSOH) を結成した。この活動は両大学を軸として、世界各国の主要な歯科大学をリングで連携し、1校単位の姉妹校単位ではできない、国際的な学術交流活動を展開しようというグローバルな構想のもとに築かれた。この活動に共鳴して、1986年より本学新潟歯学部、ミシガン大学、本学歯学部、マンチェスター大学において「国際歯学研修会」が開催されている。現在、日本歯科大学は、世界の18の歯学部と姉妹校を提携することになった。

日本歯科大学は、2年後の2026年に、創立120周年を迎える。創立者は中原市五郎である。国立大学には、福沢諭吉、大隈重信、吉岡弥生、中原市五郎はいないのである。すなわち、国立大学には、創立者は不在である。本学の創立者中原市五郎は、建学の起源であり、悠久のシンボルである。もし創立者がいなかったら、今、私たちはここには存在していないことを肝に銘ずべきである。

今回、創立120周年を迎えるにあたり、日本歯科大学が世界の歯科界で果たすべき役割について、次の3項目に関して講演する。

- 1) 世界の歯学部との関係強化
- 2) 世界を牽引する研究
- 3) 世界の歯科学生との交流



すみ た ゆ か
隅 田 由 香

日本歯科大学生命歯学部
歯科補綴学第1講座 教授

「今アップデートしておきたい歯科補綴に関する知識とその臨床応用」

増加する高齢者や有病者、通院不可能在宅者が必要とする歯科治療の大半は、「義歯の製作や調整」であることが明らかになっている。また、可撤式有床義歯は有用性が高く、多様なバックグラウンドをもつ高齢者や有病者らにも、適用制限が少なく使用できるため、医科からの期待も高い。

全オーダーメイドの装置である補綴装置を用いる歯科補綴治療は、歯科特有の治療法であり、咀嚼機能、嚥下機能、発音機能、さらには整容性の改善を非侵襲的に行える。これらの改善は社会活動への手助けや社会復帰を促し、さらには咬合の回復が認知症予防にも寄与するという報告もある。社会参加への促進や認知症の予防は患者の生活の質を向上させ、健康寿命を延ばし、地域全体の健康増進に寄与するなど、補綴治療による咬合回復が社会にもたらす波及は少なくない。

今後も高齢者数ならびに全人口に対する高齢者の割合が増加し、難易度の高い症例も増加することから、補綴歯科治療の重要性は高まり、国民からは高い水準の治療が求められることが予想される。今まさに、先人たちが積み上げた知識と経験が、これまで以上に活かされるべき時代と確信している。

期待が高まる一方で、社会人口動態の変化に伴う患者動態の変化、医歯薬連携や地域連携を基盤とする歯科治療の必要性が増している現代において、補綴治療への要求も上がり、多様化しているのも事実である。日本補綴歯科学会の取り組みの変遷も、この多様化への柔軟な対応の結果といえよう。口腔機能管理と口腔衛生管理さらに歯列（咬合）管理を加えた口腔健康管理、機能療法との掛け合いや多職種連携での補綴的支持療法の実践、また、感染予防に貢献する歯科衛生士や、完全オーダーメイド装置の製作に携わる歯科技工士との協力体制の強化など、来るべき時代の要請に対応するための備えである。

どのような歯科治療・研究であっても、真のエンドポイントは患者の「健康・幸福長寿」に寄与したか否かである。これからの時代に輝ける歯科医師であるために、本講演では、補綴学のなかでも特に床義歯学の基本概念と礎となる理論の確認から、デジタル技術の応用による歯科補綴治療の一例そして口腔機能の予測を行う AI システムの紹介までを行う。

誰もが「生まれてきてよかった」と感じられる世界を創造するために、医療の未来を見据え、補綴歯科の可能性を最大限に引き出すため、歯科補綴に携わる我々が今何をできるか、何をすべきかについて、共に考え、議論することが必要である。本講演を通して、多様化する要求に対応した歯科補綴治療を提供するための方策について先生方と共に考えていきたい。

略 歴

1997年3月 日本歯科大学歯学部 卒業
2001年3月 東京医科歯科大学大学院修了（歯学博士）
2005年4月 東京医科歯科大学顎顔面補綴学分野 講師
2021年4月 東京医科歯科大学顎顔面補綴学分野 准教授
2023年6月 日本歯科大学附属病院総合診療科4 教授
2024年4月 日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第1講座 教授

所属学会

公益社団法人 日本補綴歯科学会(専門医、指導医)
一般社団法人 日本顎顔面補綴学会(理事、認定医)
一般社団法人 日本口蓋裂学会(理事、認定師)



きた じま かよこ
北 島 佳代子

日本歯科大学新潟生命歯学部
歯科保存学第1講座 准教授

「現代の根管事情と歯内治療のnew technologies」

歯の代表的構成要素の1つである象牙質は、歯根完成時に形成されている原生象牙質、その後生涯にわたりゆっくりと歯髓腔側全周に添加され続ける第二象牙質、外来刺激を受けた象牙細管直下に形成される第三象牙質があり、象牙質粒などとともに歯髓腔の形態変化に影響し、時に歯内治療は困難を極めます。

一昔前の歯の疾患として、重度齲蝕から歯髓炎を惹起し、急性化膿性根尖性歯周炎を継発して、強い痛みを伴う歯肉の腫脹を冷やしながら夜中に急患来院する図がイメージとして思い浮かぶ先生もいらっしゃるかもしれません。しかし、現代ではこのような病態に遭遇する機会は少なくなり、むしろ狭窄して開かない根管の治療に苦慮することが多くなっているのではないのでしょうか。

近年口腔衛生の向上、予防歯科医学の発達、歯の保存の推進などにより、重度齲蝕の罹患率は低下して歯の寿命が延長し、ブラッシングの励行も相まって、老若を問わず根管口部の石灰化、狭窄、閉鎖傾向の著しい歯が増加し、根管探索の困難な症例が増加しています。さらに、高齢社会を迎え、根管の加齢変化に加え、長期にわたる機械的・化学的刺激、根面齲蝕や歯周疾患などの細菌学的刺激等に呼応した根管の狭窄傾向はますます強くなると予測されます。

歯内治療の成功の鍵は機械的根管拡大形成、化学的根管洗浄と消毒、緊密な根管充填の3つに基づいており、根管内をいかに無菌な状態にし、それを維持するかにかかっており、これは昔も今も変わりはありません。しかし、現代の根管事情は一昔前とはかなり異なっており、これに合わせてアプローチの方法を変えていく必要があります。現代の根管事情に対峙するために様々な器材の開発や new technology が考案され、それに伴う歯内治療の新しいコンセプトも導入されています。

器材としては、ラバーダム防湿は言わずもがな、歯科用 CBCT、拡大鏡や歯科用実体顕微鏡とその周辺器材、超音波発生装置と各種チップ、NiTi ロータリーファイ

ルは必需品となりつつあり、MTA、NaClO、EDTA などの薬剤の使用法に対する考え方にも変化が現れています。さらにこれらの器材を用いて拡大形成を完了した根管を3次元的に緊密に充填するための根管シーラーの開発や新しいコンセプトに基づく根管充填法も導入され、歯内治療は多様化しています。

歯科治療の基礎をなす歯内治療の成功は、象牙質とその形成をコントロールする歯髄の複合体である象牙質・歯髄複合体の性質を理解し、新しく開発された機材や New Technology を駆使し、失敗のない根管拡大のテクニックを習得して、いかに歯内治療の Basic theory を高いレベルで完遂するかにかかっており、令和時代の歯内治療は、より専門的な知識と繊細な技術が求められることが必至です。

本講演ではその一端を紹介しながら歯内治療の現状とこれからについて考えてみたいと思います。

略 歴

- 1985年 日本歯科大学新潟歯学部(現 日本歯科大学新潟生命歯学部) 卒業
- 1991年 日本歯科大学大学院修了(歯科基礎系専攻)、歯学博士
日本歯科大学新潟歯学部保存学第一講座(現 日本歯科大学新潟生命歯学部歯科保存学第1講座)助手
- 1994年 日本歯科大学新潟歯学部保存学第一講座(同) 講師
- 2007年 University of London 留学
- 2009年 University of Bergen 留学
日本歯科大学新潟生命歯学部歯科保存学第1講座 准教授

所属学会・認定指導医

- 日本歯科保存学会 評議員 保存治療認定医・専門医・指導医
- 日本歯内療法学会 代議員 歯内療法認定医・専門医・指導医
- 関東歯内療法学会 理事
- 日本顕微鏡歯科学会 代議員
- 日本再生歯科医学会 代議員他
- 日本歯科大学歯学会 日本歯科医学会 日本歯周病学会 日本再生医療学会
- 日本歯科医学教育学会 歯科基礎医学会 日本外傷歯学会 日本接着歯学会
- IADR 正会員

令和6年度日本歯科大学 東北地区歯学研修会準備委員会

準備委員長

田 中 彰 (79) 日本歯科大学歯学会副会長

準備副委員長

石 川 明 子 (70) 日本歯科大学校友会常務理事
小 松 義 典 (64) 秋田県日本歯科大学校友会会長
近 藤 磨 史 (65) 青森県日本歯科大学校友会会長
村 田 昌 明 (67) 岩手県日本歯科大学校友会会長
工 藤 祐 光 (74) 福島県日本歯科大学校友会会長
二 宮 孝 朗 (76) 宮城県日本歯科大学校友会会長
鈴 木 基 (71) 山形県日本歯科大学校友会会長

準備委員

毛 呂 光 一 (74) 山形県日本歯科大学校友会副会長
雪ノ浦 康 子 (76) 山形県日本歯科大学校友会副会長
今 野 順 彦 (80) 山形県日本歯科大学校友会副会長
早 川 徹 (75) 山形県日本歯科大学校友会専務理事
石 川 隆 (70) 山形県日本歯科大学校友会理事
渡 部 公 希 (77) 山形県日本歯科大学校友会理事
大 沼 智 之 (78) 山形県日本歯科大学校友会理事
土 屋 晶 子 (79) 山形県日本歯科大学校友会理事
佐 藤 元 (81) 山形県日本歯科大学校友会理事
板 垣 彰 (81) 山形県日本歯科大学校友会理事
山 蔦 佐 和 (83) 山形県日本歯科大学校友会理事
松 岡 勲 (84) 山形県日本歯科大学校友会理事
石 黒 慶 史 (88) 山形県日本歯科大学校友会理事
鈴 木 詠 子 (72) 山形県日本歯科大学校友会監事
田 原 純 一 (72) 山形県日本歯科大学校友会監事
迎 田 健 (75) 山形県日本歯科大学校友会監事

表紙「秋の山居倉庫」

裏表紙「春爛漫」

「特急いなほ」

「鯉のぼり」

写真提供 五十嵐 正大(54回卒)

